

## 地域金融機関による中小企業の SDGs・ESG 評価

株式会社福岡銀行 常務執行役員 平田 慶介

未曾有の事態を引き起こしたコロナ禍は新たな社会課題を顕在化させ、企業戦略における価値観を激変させるきっかけとなった。

それは、地域社会においても同様で、環境問題をはじめ、人口減少や少子高齢化といった社会課題が山積みする中、地域社会の持続的な成長に向けて、サステナビリティの考えや SDGs・ESG 取り組みの必要性がますます高まっている。

このような状況の中、福岡銀行を擁する、ふくおかフィナンシャルグループ（以下、「FFG」という）では、地域金融機関発、九州大学との産学連携で構築したグローバル基準の評価項目を用い、国内企業数 99.7%を占める中小企業をメインターゲットに SDGs・ESG 評価を展開、地域からのボトムアップで、中小企業の取り組みをサポートしている。

FFG では、2021 年 4 月に 100%子会社「株式会社サステナブルスケール」を設立。ESG に関して高度な知見を有する九州大学との産学連携の取り組みとして、評価項目含め海外の大手評価機関のスコアリングと遜色ないレベルの評価モデルを構築。グローバル基準の評価項目を持ちながら、中小企業の相対評価が出来るという点において、国内に存在する既存の ESG 評価とは一線を画した独自性を持つと考えられる。

SDGs・ESG 評価を起点に地域企業との対話の機会を増やし、SDGs や ESG の切り口から幅広いテーマを取り上げることで、地域企業の持続的成長に向けた支援につなげる、というこの一連の取り組みが環境省から評価され、第 4 回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」で「銅賞」を受賞した。

今後、この評価システムを地域金融機関に展開することで、SDGs・ESG に関して全国の中小企業を同じ基準で評価することができるようになる。このような取り組みを全国に広め、この SDGs・ESG 評価を国内標準の評価モデルへと進化させることが、地域社会や企業に「持続可能性に関する当事者としての課題意識を持たせる」という地域金融機関が担うべき役割を果たすことに繋がり、ひいては持続可能な地域企業・地域社会の実現に資すると考えている。